

# センター便り

第3号(平成27年4月11日)

発行：心理相談センター

あっという間に新年度を迎え、当センターでの実習に勤しむ大学院生にも新たな顔ぶれが増えました。駅から学内へと向かう途中のきれいな桜に春の訪れを感じます。

2月に開催致しました公開講演会の様子を掲載致しました。



## \* ミニコラム \*

### 第3回

2014年度の公開講演会は、国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所の自殺予防総合対策センター副センター長、薬物依存研究部 診断治療開発研究室長の松本俊彦先生にお願いして「青少年の自殺予防のために何ができるか」という演題で開催されました。

先生には講演依頼が大変に多く、今回の講演もご多忙の中、何とか調整して下さいました。このようなご多忙の理由としては、もちろん、今回の演題のような問題に対する社会的関心の高さということですが、しかし、より大きな要因としては、先生の語りが大変にわかりやすいことです。当日は、遠方からも先生の熱心なファンが多く参加されて、講演依頼の多さも領けました。

今回の講演で先生は、自傷や自殺を試みる方の心理や対処についてデータに基づいて解説して下さいましたので、参加された皆さんは、精神論などではなく実際的な理解を深めることができたと思います。特に「自傷はハッピーじゃないから体内麻薬を発動させて生きるための手段。だから自傷をやめさせるだけでは解決にならない。」という言葉は、臨床的に重要な意味を持っていると感じられました。

また、別の機会に、危険ドラッグなどの薬物に関する講演をぜひお願いしたいものです。

(I.T)

## 平成26(2014)年度 活動報告

### <月別来談者数>

単位：人

H26	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
来談者数	212	196	232	249	174	201	255	233	238	221	235	237	2,683
うち初来談	10	9	8	9	2	5	10	8	7	6	4	12	90

### <公開講演会を開催しました>

平成27年2月14日(土) 14:00~16:00

## 『青少年の自殺予防のために何ができるか』

【講師】 松本 俊彦 氏

〔 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所  
自殺予防総合対策センター副センター長 〕

当日は天候にも恵まれ、54名の方にご来場いただきました。

教育相談に携わっている方や、臨床心理学を学んでいる学生に多くご来場いただき、1時間30分の講演と30分の質疑応答に分かれ、密度の高い、有意義な時間となりました。

ご来場くださったみなさま、ありがとうございました。



### \*平成27年度4月~9月 閉室日\*

4月：29日(水)・30日(木)

9月：11日(金)・12日(土)

5月：1日(金)~6日(水)

21日(月)~23日

7月：20日(月)

